

箕

面

の

森

の

野

鳥

た

ち



ウソ(オス)



ウソ(メス)

ウソ(鶯)

~冬の山に響くやさしい口笛~

「本当にこんな名前の鳥がいるのか？」と思われるかもしれません。名前の由来は、鳴き声が、「フィー、フィー…」と口笛を吹いて(「嘯いて」)いるように聞こえることから名づけられたと言われています。スズメより少し大きめで、オスは喉と頬が紅色をしているのが特徴です。短く太いくちばし、頭と翼、尾羽が黒く、体はオスが灰白色、メスはわずかに褐色を帯びています。

本州の亜高山帯で(北海道では低山でも)繁殖し、冬には多くが低い山に移動して、越冬します。箕面の森にも、早い年では11月頃に姿を現し、4月初旬頃まで姿を見ることができですが、その年によって、やって来る数はさまざまです。

冬の鳥には、12月にご紹介したアトリのように大きな群れをつくるものもありますが、ウソは多くても10羽ほどの群れで行動し、さまざまな樹木の種を食べて過ごします。箕面で観察された代表的な食べ物は、ムラサキシキブ、ウツギ、リョウブ、イロハモミジ、ゴンズイなどの種子です。

2月ごろには芽吹き始めた桜の花芽なども食べることから、とかく害鳥扱いされることもあるようですが、これまで食害で桜がだめになったことは無く、ウソには気の毒な「嘘話」だと思っています。

近年で多くのウソが見られたのは3年前の冬、毎日のように目を楽しませてくれました。好物の樹木の近くで根気よく待っていると、急に口笛が聞こえ、ウソの飛来に気がつきまします。この冬もぜひ、あの優しい声を聞き、美しい姿を観察してみたいものです。

文・写真 木山雅博
(箕面ビジターセンター所長)

ストップザ放火!



1月~3月

放火をさせない
環境づくりにご協力ください

R70

古紙パルプ配合率70%再生紙を使用

PRINTED WITH
SOYINK

古紙配合率70%再生紙、ソイインキを使用しています